

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	習志野市立大久保小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	3	3	1	23	31
児童数	146	143	140	121	118	111	5	784	

II 研究の概要

1. 研究主題

「個に応じた指導方法及び指導体制のあり方」 ～算数科における豊かな表現をめざして～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年、算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科、系統的な指導が必要な教科であるため全学年で算数を実施している。
--

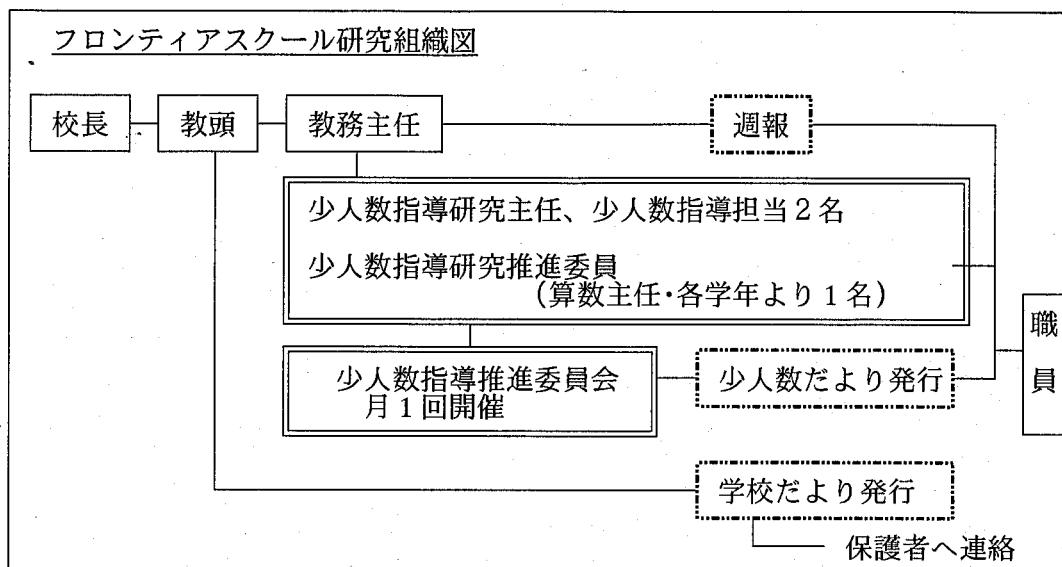
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	( 指定なし )
--------	----------

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 「個に応じた指導方法及び指導体制のあり方」 ～算数科における豊かな表現をめざして～</li> <li>○ 研究の見通し 少人数対応日課表を作成、低・中・高学習室を設置し、効果的な学習集団の編成や指導法のあり方を探る。</li> <li>○ 研究の内容・方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数対応(3分割対応)日課表の作成、等質2分割・TT授業の実施</li> <li>・学力向上推進委員会の開催、発展教材教師用図書整備</li> <li>・少人数授業指導計画作成、児童の自己評価力の育成、校内授業研究会の実施</li> <li>・児童、保護者アンケート、児童授業意識調査、学力テストの実施</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ「個に応じた指導方法及び指導体制のあり方」 ～考える力・伝え合う力を高める算数学習～</li> <li>○ 研究の見通し 少人数授業指導計画の見直し(3分割授業対応)を図り、授業実践を強化する。研究成果を公開(10月27日予定)する。</li> <li>○ 研究の内容・方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース別習熟3分割授業等の実施</li> <li>・少人数授業指導計画の見直し</li> <li>・児童の自己評価力の育成</li> <li>・授業公開、保護者アンケート・学力テストの実施、研究成果のまとめ</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

### (3) 研究推進体制



### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

本校の国語研究の成果を生かし、そこで育まれた表現力を算数科でどう生かしていくかというテーマは、本校の実態に合っていたように思われる。算数では思考力を重視する。ノートにわかりやすく自分の考えを書くことやそれを友だちに伝え話し合う活動に対し児童・職員の関心が高まってきた。

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
  - ・各学年に教材を置くレターケース、少人数担当者は教材を保管する单元毎のファイルを整備、関連図書を購入など現在教材の整備を進めている。
  - ・算数的な活動やゲームなど取り入れた学習は、児童全体に好評であった。発展的な教材は、コース選択した児童90%に満足感を与えることができた。
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
  - ・少人数指導対応日課表を作成し学習室を確保できたことは、常時2分割授業やT T授業が行えるようになり、指導方法・指導体制の工夫改善に役立った。
  - ・4年生では、一斉授業・T T授業・等質2分割授業・コース別習熟3分割授業をそれぞれ実施し、アンケートから、児童はそれぞれの授業形態に対してほぼ同数の割合で支持していること、補充コースの保護者からは等質2分割、発展コースの保護者からはコース別習熟3分割授業の支持が多いことがわかった。
- (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
  - ・児童ノートをカルテとして活用できるように、ノート指導に力を入れた。ふりかえりテストや使用した教材プリントをノートに添付することにより、児童のふりかえり学習、保護者の授業内容の理解に役立った。コース別学習では、70%程度の保護者が関心を持って児童のノートを見てくれた。
  - ・事前テスト、ふりかえりテストなど診断・形成テストを実施、児童と保護者が相談して、コース選択に役立つ姿が多く見られるようになった。

#### 2. 今後の課題

校内授業研や児童・保護者アンケートからも、今後の指導方法・指導体制は方向性が少しずつ見えてきた。講師から算数という教科の特性を把握するとい基本的な部分の甘さを指摘された。そこで、思考力(ものの見方や考え方)を育てるための問題解決型の授業展開や既習内容や教科の系統性の把握に力を入れていきたい。

指導方法・指導体制の工夫改善としては、コース別習熟3分割授業の実施に関して日程調整に苦慮した。3年生以上で、学期1回重点教材でコース別3分割授業が円滑に行えるよう、新たな少人数対応日課表を作成したい。

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
  - ・関連図書や資料から教材整備を続けていく。また、それらを年間指導計画に位置づけ活用していく。
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
  - ・年間指導計画に一斉授業・T T授業・等質2分割授業・コース別習熟3分割授業を実施時期や教材の特性に応じてバランスよく配置していく。算数的活動を重視した課題別2分割授業にも取り組んでみたい。
  - ・多くの教員が多くの授業形態を経験し、授業改善ができるように「校内推進委員会」で協議し、校内研等を通して、10月の授業公開に向けての指導体制を作っていきたい。
- (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
  - ・診断テスト、ふりかえりチェックテスト、アンケートなどのコース別学習到達度資料を続け、引き続き児童が自分でコース選択できる環境を整備したい。
  - ・児童の既習事項理解度を表す資料などを少人数担当が作成、担任に管理してもらうシステムを工夫していきたい。

#### IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・児童・授業参加意識調査  
(学年始めに行いその児童の意識を把握、今後の指導に生かす：5月)
- ・診断テスト、振り返りチェックテスト、コース別学習児童(保護者)アンケート  
(コース別習熟3分割授業実施時に行いその児童に合ったコースや指導に役立つ。：各学期1回)
- ・診断テスト、振り返りチェックテスト  
(各単元で児童の既習事項実態調査把握のため)
- ・学力テスト  
(到達度テストとして全体的な傾向を調査、次年度の指導に生かすため2月実施)

#### V フロントアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
  - ・平成15年度はなし。
  - ・平成16年度は、授業公開(10月27日、本校で国語研究発表と同時に1日展開を予定)を通して研究成果を公開、多くの教員に協議・理解してもらい、フロントア事業を普及させるため開催を予定。
- (2) 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績
  - ・平成15年度、自校ホームページを作成、学力向上フロントア事業のページを設ける。
  - ・平成16年度、授業公開時に研究のまとめを作成、市内各学校に配布予定

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                       19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T、Tによる指導  
                                   一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                   生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                   体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無